

【研究ノート】

短期大学幼稚園教育実習事前指導プログラムの検討

木村美佐子, 五十嵐睦美, 松本直美, 石橋修, 三橋功一

Consideration of the advance guidance program for junior college students' teaching practice

Misako KIMURA, Mutsumi IGARASHI, Naomi MATSUMOTO,
Osamu ISHIBASHI, Koichi MITSUHASHI

1. はじめに

かつて、『第三の波』（トフラー, A. 1980）¹⁾で「情報革命・情報化社会」が予告されたように、現代は知識を基盤とした知識社会、深い学びの社会、生涯学習社会である。このような知識社会・深い学びの社会において、OECD（経済協力開発機構）をはじめとして、修学前教育歴（家庭内・外教育経験）の有無は、その後の学校教育における学業成績や社会性（自己調整能力）等に肯定的効果をもたらす報告がなされている。また現在日本では、合計特殊出生率（15～49歳までの女性の年齢別出生率の合計）は、1970年代には2.0以下へ、2005年には1.26まで低下し、現在は1.4台のように、家庭や地域の子ども数の減少（少子化）が大きな課題である。その要因として、子育て・教育にかかる経済的負担・コスト、子育てと仕事・社会参加の両立の難しさ、子育てに関わる精神的負担感等があげられている。このように、働く女性の出産後の乳幼児の幼稚園・保育所への入園に関わる待機児童、子育てに関わる問題、児童虐待等の社会的課題があり、修学前教育を担う保育者の実践力・専門性や資質向上に関わる社会的要請等がますます高まってきた。

このような社会状況の中で、保育士・幼稚園教諭をめざす本学学生の多くは、「子どもが好き」「子どもの成長を間近で見ることが嬉しい」というように、幼児のリアルな姿・遊び等から学びの意欲を向上させている。とりわけ幼稚園教育実習は、子どもの保育臨床において主体的保育実践による学びの動機づけ・促進を図るものと位置づけられる。

教育実習は「①学校教育の体験的な認識、②教科や教職の理論と実践的能力の統合、③教育実

践の研究的態度・能力の形成、④教育者としての使命感、能力適性の自覚」を目的として教員養成カリキュラムの基幹科目として位置づけている（文部省 1978）²⁾。教育実習は、キャリアステージにおいて「探索段階（16～25歳）」にあたり、職業実践を通じて職業が自分の生涯にわたるものになるかどうか希望の形作り・検討・探索を通して、自己概念を形成・発達していく時期・機会である（スーパー, D. E. 1960）³⁾。さらに、尾高は、ウェーバーの職業倫理やデュルケムの社会分業論を参照し、職業について多様な側面から考察した『職業社会学』（1941）⁴⁾において、「①生計維持（経済的側面）、②個性の発揮（個人的側面）、③社会連帯の実現（社会的側面）」を職業の要素として抽出している。教育実習は、学生の「②個性の発揮、③社会連帯の実現」の職業的機能といえる。

教育実習は、大学のカリキュラムであるが、「外部の教育機関（教育実習園）へ委託」し、指導教員のもつ「教育実践の知」を学ぶという特徴がある。大学における学びは、命題的知識（外部表象化・選定された知識・能力・技能）獲得による認知構造の変化に焦点があてられるが、教育実習は「指導教師との教育活動の協同的实践により、指導教師の教育活動の実践知（暗黙知）の獲得」と捉えることができる。つまり、教育実習は、幼稚園教諭という専門家主導の実践共同体・幼稚園教育活動（本物の実践・学校教育）へ、教育実習生（非専門家）が保育指導の観察・手伝い（周辺参加）から少しずつ責任を担い実践共同体の社会文化的実践（幼稚園教育）への十全参加への移行を通してアイデンティティの形成過程である。教育実習は、学生（学習主体）が教育実習園（正統的実践共同体 community of practice）へ

赴き、その園の教育活動に周辺の参加し、その参加の形態を徐々に変化させ、より深く実践共同体の活動に十全的関与に向かう過程であり、「正統的周辺参加による学習」（レイブ, J. ・ウェンガー, E. 1991）⁵⁾といえる。このように教育実習の学びは、学生の観察参加から、指導教師の指導の下、共同（手伝い）で継続的教育活動を行い、実習終了時には「研究保育」実施へと、共同体の活動への参加形態の変化、それに連動し学習主体の行為のあり方、学習主体による実践共同体の社会文化的活動（観察、環境構成、働きかけ、評価等）の理解、さらに同期的に学習主体の自己認識（視点の変化、実践の理解、共同体における位置等）を形成・変容させていく学びである。

本稿は、このような教育実習の学びへ赴くための教育実習事前指導プログラムとそれを構成する指導内容・教材について検討する。

2. 幼稚園教員養成カリキュラムにおける 教育実習事前指導プログラム

本学（函館短期大学）保育学科では、保育士・幼稚園教諭養成カリキュラム（資料1）を構成している。保育学科カリキュラムマップは、水準0から水準4の5層にて構成されている。

水準0：学修到達度に関わらず、短期大学士に相応しい教養を身につける科目

水準1：当該領域および系列を学修するための基礎・総論的位置付けの科目

水準2：当該領域および系列の各論、水準1の科目の応用的内容を含む科目

水準3：該領域および系列の発展的内容の科目

水準4：既習科目を複合させて、学修の集大成として取り組むべき科目

「幼稚園教育実習」「幼稚園教育実習事後指導」は水準3、「幼稚園教育実習事前指導」は水準2に配置されている。「幼稚園教育実習事前指導」は、「芸術」「保育学・保育内容」領域の履修レディネスを保持し、「社会福祉、児童養護、保護者支援」「子どもの健康・保健」「保育実習」と並んで学習を進める。教員養成において教育実習は、基幹・コア科目であり幾つかの領域の学習の積み上げによる学びとして位置づけられるが、短期大学における「幼稚園教育実習事前指導」は、幾つかの領域の学習の積み上げと併せて並行し学習するシステムとなる。

ディプロマ・ポリシーにおける「幼稚園教育実習」「幼稚園教育実習事前指導」「幼稚園教育実習事後指導」の機能・役割は以下の通りである。

〔知識・技能〕

DP1. 保育と子育て支援に必要な専門的知識と技術を有し、子どもの成長を促す保育を展開できる

DP2. 地域の特性を適切に把握し、保育に反映させることができる

DP3. 保育者の社会的使命を理解することができる

〔思考力・判断力・表現力〕

DP4. 子育て環境を深く分析して、課題や問題を見つけ出し、その解決に向けて計画的に考え、答えを導き出す能力を身につけている

DP5. 身につけた知識と技能を生かし、物事を的確に認識して評価できる能力を身につけている

〔コミュニケーション力・社会力〕

DP7. 専門職業人としての高い倫理観を保持し、社会に貢献しようとする事ができる

DP8. コミュニケーション力を身につけ、他者と協働して課題を解決しようとする事ができる

保育と子育て支援に必要な専門的知識と技術を有し、子どもの成長を促す保育を展開できる「知識・技能、思考力・判断力・表現力、コミュニケーション力・社会力」を育むことを目標としている。

さて、近年の教師教育の動向は「実践的能力」に焦点をあて、「完成教育から生涯教育へ、講義中心の方法から学習者の主体性や課題に基づく自己学習—learning by doing, 為すことにより学ぶ—（Hendrey, J. A. 1979）⁶⁾と変化してきている。1978年の文部省・教育職員養成審議会では、教育実習を教員養成カリキュラムの基幹科目として位置づけ、「教育実習事前・事後指導の導入を含めた教育実習プログラムの内容・方法の改善・充実」を図り、「教育実習」を「教育実習（4単位）+教育実習事前事後指導（1単位）」とする答申をした。これを受け1980年代、教育実習の改善・充実と事前事後指導の単位化が課題となったとき、国立大学教育工学センター協議会（現在の国立大学教育実践関連セン

ター協議会)では、教育実習を大学で学ぶ専門的、学問的知識や技術を教育実践の場において具現化する理論と実践の統合の場として位置づけ、教師の実践的能力を、知的背景をもつプロセススキルとして捉え、教育実習の内容的改善として教授スキル、方法的改善としてマイクロティーチングを導入した。これについては、小金井ら(1980)⁷⁾、藤岡(1982)⁸⁾、高橋(1987)⁹⁾、山川(1987)¹⁰⁾をはじめとした教育実践を通した実証的研究が報告されてきている。

短期大学2年間の教職課程カリキュラムは、短大での学びと幼稚園の教育実習・実践を同時並行

にて学ぶ特徴がある。カリキュラムマップに基づき「教育実習事前事後指導(1単位)」のシラバス・指導計画(表1)を構成している。幼稚園教育実習事前指導では、「幼稚園教育の観察、実習日誌、研究保育の教材研究・指導案作成、研究保育の検討等」における「観察、日誌、教材研究・指導案等」課題解決活動を連携させながら幼稚園教育実習における学びの理解を図っている。この幼稚園教育実習へ臨む事前指導のプログラムの構成と教材等を検討する。

表1 シラバス・指導計画

<p>《授業目標》</p> <p>○教育実習は、本学で学んできた幼稚園教育に関する様々な理論や知識、技能を基盤として、幼稚園において実際に幼児と遊びや活動、生活を一緒に過ごしながら、体験的・実践的に幼児期にふさわしい教育についての理解を深め、教員としての資質能力を身に付けることをねらいとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育実習をより充実した効果のあるものにするためには、事前指導が必要であり、教育実習の意義を踏まえ、実習に臨む心構えの確立や諸準備、幼稚園教育を学ぶ自分なりの視点を自己課題として設定できるようにすることを目標としている。 <p>《到達目標》</p> <p>○教育実習の意義、目的を理解し、自己課題を明確にできる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども、保育者とコミュニケーションを図りながら、主体的に取り組むことができる。 ・教育目標のねらいや内容を理解し、その実現のために適当な環境を準備して一人一人に応じた援助ができる。 ・課題を明確にして実習内容を記録し、次の保育に生かすことができる。 ・実習での準備を整理し、今後の課題を設定できる。 <p>《講義計画》</p> <p>【事前・事後指導】 * 事前・事後指導は授業として実施する</p> <p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 教育実習の意義と目的・幼稚園教育の理解</p> <p>第3回 実習の心構え・訪問指導担当教員との顔合わせ</p> <p>第4回 実習関係書類の作成</p> <p>第5回 実習記録の書き方1</p> <p>第6回 実習記録の書き方2</p> <p>第7回 幼稚園観察学習</p>

第 8 回	個別指導
第 9 回	研究保育について 1
第 10 回	研究保育について 2
第 11 回	指導案の書き方
第 12 回	自己課題の明確化
第 13 回	現場の先生から
第 14 回	オリエンテーションの諸注意・実習の最終確認
第 15 回	実習報告会

3. 教育実習事前指導の内容

(1) ガイダンス

教育実習は、学生にとって3週間という初めての経験する長期間の実習である。観察実習とは異なり、自らが指導計画を作成し保育を行う研究保育が組み込まれているため、大きな不安感を抱えている学生が多い。事前指導の初回授業では、15回の授業で何を学ぶのか、なぜ学ぶのか、どのように学ぶのか、誰と学ぶのかを明らかにする。学生が不安を感じていることを丁寧に学習していくことを理解させ、学生の不安感を払拭することをねらいとして、ガイダンスは次の内容で実施している。

- 1) 授業担当教員の紹介
- 2) 授業計画
- 3) 実習期間
- 4) 見学実習
- 5) その他の教育実習に関わる予定
 - ・教育実習園におけるオリエンテーション依頼の電話について
 - ・教育実習園におけるオリエンテーション実施予定日について
- 6) 受講上の注意
 - ・講義の際は、実習ファイル・幼稚園教育要領解説を持参すること
 - ・やむを得ず欠席した場合は、次の授業の前までに担当教員から資料等を受け取ること
- 7) 実習報告会

全員が教育実習の報告を行う。詳細については、第14回授業で説明する。
- 8) 実習評価について

本授業は、実習評価（実習幼稚園からの評価）、実習報告会・提出物（学内評価）により、

総合的に評価する。

(2) 教育実習の意義と目的、幼稚園教育実習の理解

教育実習は「①学校教育の体験的な認識、②教科や教職の理論と実践的能力の統合、③教育実践の研究的態度・能力の形成、④教育者としての使命感、能力適性の自覚」（文部省 1978）2）を目的とし、教員養成カリキュラムにおいて基幹科目の一つとして位置づけられている。

1) 「教育実習事前事後指導」授業のねらい

幼稚園教育実習へ赴く教育実習事前指導においては、「教育実習の意義と目的、幼稚園教育実習の理解」を図ることが目的である。

「教育実習事前事後指導」授業のねらいは、表1の通りである。

教育実習 <授業目標>

教育実習は、本学で学んできた幼稚園教育に関する様々な理論や知識、技能等を基盤として、幼稚園において、実際に幼児と遊びや活動、生活を一緒に過ごしながら、体験的・実践的に幼児期にふさわしい教育についての理解を深め、教員としての資質能力を身に付けることをねらいとする。

教育実習をより充実した効果のあるものとするためには、事前指導が必要であり、教育実習の意義を踏まえ、実習に臨む心構えの確立や諸準備、幼稚園教育学を学ぶ自分なりの視点を自己課題として設定できるようにすることを目標としている。

教育実習 <到達目標>

- ・教育実習の意義、目的を理解し、自己課題

を明確にできる。

- ・子ども, 保育者とコミュニケーションを図りながら, 主体的に実習に取り組むことができる。
- ・教育目標のねらいや内容を理解し, その実現のために適な環境を準備して一人一人に応じた援助ができる。
- ・課題を明確にして実習内容を記録し, 次の保育に生かすことができる。
- ・実習での学びを整理し, 今後の課題を設定できる。

2) 幼児教育のねらい

幼児期は, 知識や技能を一方的に教えられて身に付けていく時ではない。直接的具体的な体験を通して,

- ・人間形成の基礎となる豊かな心情
- ・物事に自分からかかわろうとする意欲
- ・健全な生活を営むために必要な態度を培うことをねらいとする

短大において学ぶ幼稚園教育の特徴は

①環境を通して行う教育

- ・保育者との信頼関係に支えられ, 自分の存在が受け入れられているという安心感を持つことで, 自立的な生活が確立。
- ・興味関心から発した活動は, 幼児に充実感を与える。
- ・友だちと十分にかかわって展開する生活を通して, 幼児は自律性を身に付ける。

②遊びを通しての総合的な指導

- ・遊びを通して, 周囲の環境に様々な意味, 様々なかかわり方を発見。その過程で達成感・充実感・挫折感・葛藤などを味わい成長する。

③一人ひとりの発達の特性に応じた指導

- ・幼児教育では, 幼児は集団で生活しながらお互いに影響しあうことで, 一人ひとりの発達が促されることを大切にす。保育者は, 一人ひとりの幼児の行動に温かい関心を寄せ, 心の動きに応答することが重要。

3) 教育実習において焦点となる教師の力量

小金井ら(1980)⁷⁾は, 教師の実践的能力を, 知的背景をもつプロセススキルとして捉え, 教育実習を大学で学ぶ専門的, 学問的知識や技術を教育実践の場において具現化する理論と実践の統合の場として位置づけ, 実践的能力の形成の内

容・方法を提案した。さらに, 教師の力量は, 岸本ら(1986)¹¹⁾によれば大きく「教授的力量」「生徒指導能力」「経営的力量」の3領域に分けられ, その力量形成の適時性について, 新任期から10年程度までの「教授的力量(教授方法, 授業の展開, 各教科の指導法)」「生徒指導能力(児童・生徒理解)」が中心となっている。さらに「教授的力量」は, 「授業を作成する力」「授業を実施する力」「自分の授業を自己評価する力」「他人の授業を観察・分析する力」の4領域に細分化される。教員養成段階では, 「授業を作成する力」の習得が高く, とりわけ目標の明確化や構造化, 教材の開発や活用, 解釈といった指導案の作成に関するスキルの習得について教育実践の経験が有効に機能している(生田1987)¹²⁾。

4) 教育実習園・指導教員の「実践の知」の学び

教育実習は, 教育実習園において教育の対象である子どもの理解と併せて教育の重要な活動である教育活動づくりと実施について, 指導教員と一対一の対面指導にて行うことに重点をおくという特徴をもっている。実習生は, 指導教員のクラス幼児と環境と教育活動を共有化し, 観察, 模倣, 練習等の実践の共体験を通して, 指導教員の思考のプロセスに入り込みその「実践の知」を学ぶことである。

学校教育において主対象となる文字化, 言語化された知を「形式知」というが, 経験や勘に基づく言語化が難しい身体の作動等を指す知を, ポラニー(Polanyi, M. 1980)¹³⁾は「暗黙知」として提案した。暗黙知は, 実践において時々刻々と存在しているが, 膨大で流動的であることから多くは時間の経過とともに消滅し, 研究対象となっていなかった。近年, 教育過程を, 教師の教育活動の背景にある意思決定に注目し意思決定過程として捉え, そこに働く教師の「判断」「知」から教育技術過程の固有性を明らかにするアプローチが注目されている。教師の実践知の形式化が課題となっており, 西之園(1999)¹⁴⁾は, 実践知を図1のような構造に整理している。

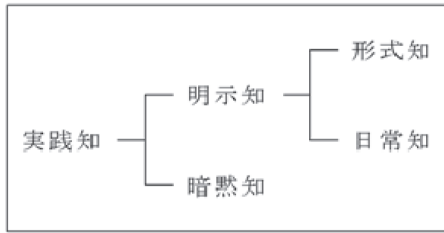


図1 実践知の構造 (西之園 1999)

実践知は、明示知と暗黙知に区分される。そのうち明示知は、形式知と日常知があり、いずれも意識化され活用されている実践知であり、教師が説明でき、他者にも伝達可能な知である。学生の学びは、明示知に焦点化されるが質的・量的に十分ではない。暗黙知は、経験を繰り返す中で内面化・無意識化する中で獲得されていることから、活用されているが意識化されていない実践知である。従って、教師自身も気づいていないため、伝達することが困難である。これまでの教育研究・授業研究では、明示知である教授技術の研究に焦点化されてきた。

Nonakaら (1996)¹⁵⁾ は、知識創造過程の研究において、ポラニー (polanyi, M.) の「暗黙知」¹³⁾ に依拠し「暗黙知・形式知」の変換・相互作用として「4つの知の変換モデル：SECIモデル」(図2)を提案している。

この「4つの知の変換モデル：SECIモデル」は、下記の4過程で構成されている。

- ①連結化 (形式知→形式知：異なった形式知を連結し新たな形式知の生成過程で、仲間同志の形式知を出し合う過程で新たな形式知を生成)
- ②内面化 (形式知→暗黙知：ことばで表出された形式知を受け取り自分のものとする内的過程で学習者固有の知識にまでなればそれが新たな暗黙知を生成)
- ③共同化 (暗黙知→暗黙知：熟達者との直接的・共感的・徒弟的關係から観察や模倣などで学ぶ、体得的な場でのわざ・暗黙知の学び)
- ④表出化 (暗黙知→形式知：暗黙知を言語化・記号化・概念化により形式知に表出し、他者に伝達)

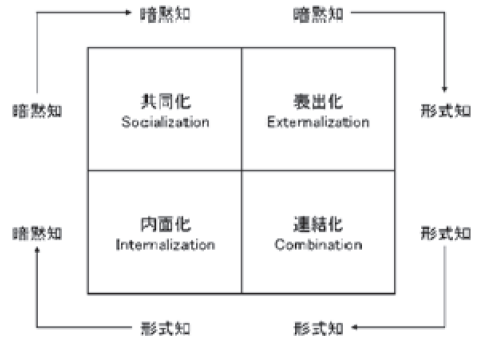


図2 4つの知の変換モデル (Nonaka ら 1996)

5) 教育実習は、短大の学びと教育実践の学びの統合過程

本学の「幼稚園教育実習」は2年次に設定され、「教職概論」「教育原理」「教育の方法及び技術」「芸術」「保育学・保育内容」「社会福祉」「児童養護」「保護者支援」「子どもの健康・保健」等の学問的履修レディネスを有して履修する。カリキュラムマップにおいて、「幼稚園教育実習」は水準3、「幼稚園教育実習事前指導」は水準2に配置されている。

教育実習の目的は「①学校教育の体験的な認識、②教科や教職の理論と実践の能力の統合、③教育実践の研究的態度・能力の形成、④教育者としての使命感、能力適性の自覚」である。教育実習は、大学での学びを幼稚園における教育活動への適応とその教育実践から得られた成果と課題を教育実習後の大学での学びとする課題生成の機会でもある。

そこで短大入学時からの学びと実習を前述の「4つの知の変換モデル：SECIモデル」(図2)にあてはめると、

- ①大学の授業：形式知→形式知：「連結化」
- ②教育実習事前指導：形式知→暗黙知：「内面化」
- ③教育実習：暗黙知→暗黙知：「共同化」
- ④教育実習事後指導：暗黙知→形式知：「表出化」と考えられる。

教育実習は、実習指導教員とともに教育活動を共同化し共感的に「実践知」を学ぶ場である。教育実習事前指導は、指導教員と教育活動を共同化・共感的に計画・実践するための準備と考えら

れる。

(3) 教育実習の心構え

教育実習は教員免許状授与に不可欠な修得必須科目であり、教育職員免許法第5条、教育職員免許法施行規則第6条などの規定に定められている。教育実習の存在は、学校現場にとり次世代の教員養成に関与する価値ある仕事であると同時に、多忙化に付随する負担も存在する。しかしながら、学生にとって教育実習の経験は、衝撃と感動を伴う密度の濃い経験であり教職への思いを高める契機でもある。職業としての教職決断のきっかけに小・中・高の教師の影響に次いで、教育実習の経験が教職選択に重要な意味を有していることは、ターニング・ポイント形成の観点からも重要であり、このことは各種データからも確認されている。

ここでは、教育実習に臨むうえで重要な事前指導を中心に、その狙いである具体的な幼稚園のイメージづくりを念頭に、実習中・実習後を通して実習生として要請される心構えについて確認・検討したい。一般に実習前・実習中・実習後という時系列に沿って、実習前であれば各養成校の実習に向けての重要説明の理解、実習先幼稚園についての理解、実習先訪問オリエンテーション（心得等）、書類作成等の必要な手続き確認があり、実習中に関連しては健康管理・衛生管理面の注意、時間の厳守、欠勤・遅刻・早退等の連絡、日常勤務中の挨拶、学ぶ態度と謙虚さ、日誌の提出、ホウ・レン・ソウ（報告・連絡・相談）の大切さ、実習課題の明確化、積極的な姿勢、言葉遣いの注意、実習後に関連しては礼状、実習日誌の点検、実習報告の実施、実習のふりかえり等、広範囲で多岐にわたる留意事項が存在する。この実習全般に関連するいわば「広義の心構え」は実習概要理解や幼稚園理解や幼稚園教育理解と深く連動し日常的な幼稚園教育実践と不可分な構造を包摂し反映したものとなる。ここでの内容は幼稚園教育実習全般への準備というカテゴリーに該当するが、これに対し「狭義の心構え」としては「広義の心構え」と重層する具体的内容を包摂しながら、実習の目的や準備を念頭に、「どのような心づもりが必要か」に比重を置く展開が想定されよう。

筆者実施の授業においては、物理的な条件も

加味しながら実習に向けたカウントダウンに随伴する期待と不安の交錯期を考慮し、事前準備が不安を自信に変えることのメッセージを念頭に内容を構成した。実施授業内容の概略は、①「はじめに」の部分では不安感、期待感の交錯の具体例としての、ピアノ、研究保育、指導案などの準備の必要性和教員への通過儀礼としての実習の位置づけ、実習を学び合いの力をつける成長のチャンスとして捉えること、②「教育実習の意義と目的の再確認の必要」に関連して、既履修科目資料の復習や保育実習との異同の理解（保育園と幼稚園の主な違い）を幼稚園教育要領の読み返しも含め確認すること、③「学生らしさを忘れず実習に臨む必要」については、挨拶、一生懸命な姿勢、礼儀正しさ、品の良い言動やTPOをわきまえた服装、健康への留意、ホウ・レン・ソウの重要性、よく見る・よく聞く・よく気づく姿勢の重要性、実習時における「幼稚園の先生」としての観点からの判断基準等、④「実習受け入れへの感謝の念を」に関しては、常に学ぶ姿勢を忘れず（21世紀の教師像）謙虚に実習に臨むことや実習先の教育実習受け入れ先の指導労力への感謝等に言及し、⑤「子どもとたくさん関わること」に関連しては、遊びの中の「学び」の理解や子どもの言動から読み取る内面理解への言及（子どもを見る目の深化）、⑥「失敗を恐れることなくチャレンジャー精神で」では、実習を機会学習と位置づける積極性と既学知識・技術の総動員等に触れた。さらに「実習のポイント」として、⑦マナーの遵守及び規則正しい生活態度、⑧各自の特技の準備（ピアノ、手遊び、素話、造形、運動遊び等）、インターネットの書き込み（守秘義務）や実習中の携帯電話操作禁止、研究保育内容の早期準備の必要性等にも言及した。

また、「困った実習生にならないように」の具体例として、子どもたちに伝わる声の重要性、指定された期日までの指導案作成、設定保育の時間配分、子どもの動きを反映した指導案内容作成、設定保育後等への指導担当者アドバイスへの謙虚な対応や態度の在り方にも及ぶ内容となった。加えて、理解を深める意図から、授業レジュメに加えた参考資料として、保育園と幼稚園の主な違いを示す表や実習で多用する漢字例表を提示し、過年度に幼稚園実習を終了した学生の実習記録も参考例として活用した。

上記担当授業の学生からの感想としては、「実習への不安をかかえていたので準備が不安を解消すると気づき、少し気持ちが軽くなった」主旨のものが多く見られた。

ここで、教育実習における「教育実習に臨む心構え」に関連する内容に関連する参考例として実習生に必要な姿勢（チェックリスト）の一部を挙げておきたい。「実習前の姿勢」として、①実習の目的をしっかりと理解しているか、②プライバシー保護や守秘義務を理解しているか、③実習記録の取り方を身につけているか等であり、「実習後の姿勢として」は①体調は万全であるか、②実習日誌はきちんと記入し提出できているか、③子どもの名前を覚えたか、④注意を受けたことは改善するよう努めているか等、「実習後の姿勢」では、①実習後の礼状を出したか、②実習ノートの期限内提出や受け取りができたか、等の内容が整理されている。

さて、授業における「実習の心構え」時間設定は教育実習の準備段階での事前指導に位置づくものであるが、日常的な取り組みの延長線に「基礎的な教養や探求心」は涵養されるものであり、誠実さ、規律正しい生活態度も例外ではない。事前指導としての「心構え」の時間設定は、通過儀礼としての教育実習を機会学習と位置づけることで、実習への動機づけや新たな学びの再構成の創出機会ともなり、これまで学習への取り組みへの振り返りやさらなる学びへの動機づけともなる。また、教育実習がリアリティーを伴いイメージされることでの実習生の不安や焦燥感の払拭は、実習への十分な準備の必要性の認識と結びつき、実習への不安と同時に「新たなものとの出会い」期待の覚醒を伴う学びが問われることになる。さらに、大学での理論学習と教育実習を関連づけるならば、実習における「心構えの」授業設定の意味合いは、心理面と社会性の交錯地点・結節点という点と関連してくる。

教育実習指導における「心構え」授業設定は、人口に膾炙している「天は自ら助くる者を助く」（スマイルズ、2015）¹⁶⁾の言葉にもみられるように、困難を乗り越える力となるものは日々、一步一步努力した自分自身であり、「真摯に実習に取り組むことでの人間的成長」が「子どもと共に歩むことのできる人」と同様に、教員を目指す人に不可欠な資質能力であることのメッ

セージを実習生に届ける重要な機会でもある。

(4) 実習関係書類の作成

教育実習の事前指導では、実習先に提出する正式な書類の記載方法についても指導を行う。それは単なる実習手続きの作業ではなく、実習関係書類を通して学生が一般教養を身につけることも視野に入れている。例えば、学生の氏名や住所といった基本的な個人情報から、学歴や職歴、資格や趣味特技までを記載する個人票では、適切な筆記用具の選択から始まり、正式な書類を書く際の心構え、全体のバランスを鑑みた文字の大きさや書き出しの位置の選択など、細かな留意点まで取り上げる(資料2)。それは、保育現場が手書きの文化を重んじ、文字で他者に情報や気持ちを伝える機会の多い仕事であることから、書類の書き方に関する教養は養成段階で身につけるべきであると考えているからである。本来ならば、このような基礎的な教養は生活の中で培われるべきことではあるが、昨今の携帯電話文化によって活字離れが進んだ学生に対しては、基礎的な部分を全体で共有していく必要がある。なお、このような書類の記載方法は反復によって身につくものであるとの考えから、保育実習指導とも連携を図りながら統一した指導を行うよう配慮している。

以上のことを踏まえて指導を行った結果、「適切な電話番号を選択すること」と「書き出しの位置を揃えること」について意識の低い学生が多いことがわかった。

一点目の電話番号に関しては、個人票の下書きの段階で、自身の電話番号記入欄や緊急連絡先に普段使われることの少ない自宅の固定電話の番号を記す学生が多かったことで浮上した問題点である。自身の電話番号と緊急連絡先をなぜ書く必要があるのか。それは、実習中に万一の事態が起きた場合早急に対処するためであり、本人に繋がらない場合は親族等に協力を要請する場合があるからである。しかし書類を記入する際に、そのような場面を想像して適切な電話番号を選択する学生は少なかった。

二点目の書き出しの位置を揃えることは、受け手（この場合園長もしくは指導教諭）の読みやすさ・見やすさに繋がる行為であり、今後お世話になる方が気持ちよく作業を行い、情報を認識するための配慮である。しかしこれに関しても、大

多数の学生は意識が向いていないようだった。

以上の二点に共通することは、情報を記す意味の理解と情報の受け手の心情が関わっている点である。何のためにこの情報を記すのか、読み手がどのように感じるかを常に念頭に置きながら書類を記入することも、一般教養の内に入るであろう。ただ単に情報を記入するだけではなく、想像力を働かせながら情報を選択する力を身につけることができるよう、今後は上記の二点を重点的に取り上げながら指導を行っていきたい。

(5) 実習日誌の書き方

実習日誌(資料3)は、教育実習に臨むに当たり学生が大きな不安を感じるものの一つである。事前指導では、その不安を払拭するために資料を活用しながら丁寧な指導を行っている。さらに学修内容を具体的にイメージすることをねらいとして、卒業生の実習日誌を模写させている。

1) 実習日誌の目的

- ①1日の実習内容を振り返ることで、自分の学びと課題を明確にする。
- ②子どもの発達や保育者の意図を理解し、自分の保育力の向上につなげる。

2) 実習日誌の書き方

①記入についての基本的な注意点

- ・ボールペンで書く
- ・読みやすい字で書く
- ・誤字・脱字に気をつけて書く(辞書を持参すること)
- ・話し言葉に注意し、書き言葉で記述する
- ・指導内容が分かるように修正する(指導教員の添削・指導は消さない)(図3)

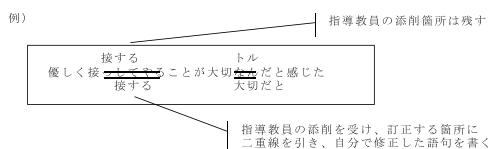


図3 指導内容がわかる修正方法

②記載についての基本的な注意点

《表ページ》

- ・クラス名・人数・出席状況・担任氏名・実習生名
- ・活動の区切りとなる時刻

- ・環境構成(保育実習の日誌と異なる!)
- ・幼児の活動・保育者の援助:子どもと保育者の区別がつくような工夫をする

主語は「幼児・保育者」

【悪い例】「泣いている子どもがいた」

→「友達とぶつかってしまい泣く」

- ・実習生の活動:出勤から退勤までを簡潔に示す

- ・気づきが重要

*幼児の活動を見て、気づいたことや考えたことを示す

【悪い例】「遊びの輪に入れない子どもがいた」

→「遊びたい気持ちがあるが、自分から言い出せないのではないかと感じた」

*保育者の動きを見て、その背景にある意図や配慮などを考え示す

【悪い例】「遊戯室の端で子どもを見守っていた」

→「全体を見渡せるように、立つ位置を考えているのだとわかった」

*自分の援助の仕方について気づきを示す

【悪い例】「抑揚に注意して絵本を読んだ」

→「抑揚に注意して絵本を読むと、子ども達が集中するとわかった」

「○○が△△している姿を見て☆☆だと気づいた」

《裏ページ》

・本日の主なねらい、または活動前日のうちに担任教諭に尋ねる。

・自己課題

前日に聞いたねらい・活動、または前日の反省を踏まえ、前日のうちに自分で決める。

・感想

一日の保育を通じて感じたことを書く。

・学んだ点・反省(重要!)

*具体的なエピソードを交えながら、何を学び、何を反省したのか記す

*自己課題にどのように取り組み、どのように達成したのか、何を理解したのか記す

*自己課題が達成できなかった場合には、なぜ達成できなかったか考察する

③自己課題の注意点

・実習段階に応じた自己課題を立てる

観察実習段階と参加実習段階では、自己課

題の内容が異なる。自己課題が深化発展していくことが望ましい。

- ・同じ自己課題が続くこともある
自己課題が達成できなかった場合には、翌日も同じ課題を設定しても良い。但し、なぜ達成できなかったのか反省・考察を記載し、翌日の実習に繋げることが望ましい。
- ・明確な視点を持って観察する
自己課題を達成するために、何を観察するのか明確な視点を持つ。

(6) 研究保育の理解

1) 研究保育の目的

幼稚園教育実習では、観察実習において、幼稚園の一日がどのように展開するか、また様々な個性を持つ子どもの様子、保育者の活動について把握する。その後、一日の保育の一部を保育者の立場で担当する「部分保育」を行う。さらに部分保育を経験した後、担任に指導を受けながら、指導案を作成して、担任に代わり責任を持って保育する「研究保育」を行う。研究保育は、教育実習期間の後半に行われることが多く、教育実習の総まとめともいえる。指導案を作成し主体的に保育を行うことで、子どもや保育全体を見渡し、保育実践の力をつけることが目的である。

2) 研究保育までの流れ

①観察実習

- ・幼稚園の一日の流れ、幼児の発達の特徴、保育者の動きと意図、環境構成など観察し理解する
- ・保育者としての意識をもち、子どもと共に遊び全体を観察する
- ・観察で気付いた多くの疑問を、積極的に解決する
- ・実習日誌に的確に記録する

②部分保育

- ・担任の保育指導計画に基づき、一日の保育の中の特定の活動を実習生が担当する
- ・部分保育指導案を作成し、担当保育者から指導を受ける

例) 昼食時間、朝の活動、降園前の活動、制作活動の部分など

③研究保育

- ・幼稚園の指導計画に基づき、自ら指導案を作成し保育を行う

3) 研究保育の事前準備

研究保育を計画するための準備として、下記の項目を明確にしておく

- ・研究保育の内容（課題の明確化）
- ・実施時期の確認
- ・指導案提出期日の確認
- ・教育課程や年間指導計画の確認
- ・幼児理解
- ・担任教諭の保育の理解

4) 研究保育の指導案の作成

指導案は、これまで毎日記録した日誌の項目が、活かされる様式になっている。

指導案の項目は、下記の7項目である。

- ・幼児の姿
- ・活動のねらい
- ・活動内容
- ・環境構成
- ・予想される幼児の活動
- ・教師の援助
- ・評価の観点

指導案の書き方資料を参考に、何を書くのか具体的に指導を行った（資料4-1, 4-2）。

5) 指導案の模写

指導案の書き方、研究保育の流れを具体的にイメージするため、実際の指導案を模写する（資料5-1, 5-2, 5-3）。

指導案の模写のねらいは、下記に示すとおりである。

- ・書式と各項目の記述内容と表現方法等の理解
- ・研究保育における活動と流れの理解
- ・保育活動のための保育者の準備・教材研究活動の理解

6) 研究保育に関わる注意事項

①研究保育実施日程の連絡について

函館市内・近郊の幼稚園における研究保育は、可能な限り短期大学教員が参観するため、日程が決まり次第短期大学に報告する。

②指導案提出について

・函館市内幼稚園実習生 一研究保育前に2部を短大へ提出する。

*事前に持参することが困難な場合は、FAXでも良い。その場合は実習終了後原本1部提出する。

- ・函館市外幼稚園実習生一実習終了後に1部を担当教員に提出する。
- ・指導案の様式は、実習幼稚園の指示に従うこと

(7) 幼稚園見学実習

幼稚園実習開始前に、函館市内の私立幼稚園にておおよそ2時間見学実習を行い、学びを深める。学習した実習日誌の書き方を参考に、実際に実習日誌を書く。環境構成や幼児の活動、保育者の意図等を詳細に記録し、指導担当教員から添削指導を受ける。

幼稚園見学実習は、保育者をめざす学生が幼稚園に赴き、学びの対象である幼稚園児の視点にできるだけ近づき、その教育活動のリアリティーを観察・記述する参与観察participant observation であり、3, 4, 5歳児の各クラスに分かれて観察を行う。

幼稚園における観察は、非構造的・日常観察であり「観察者は、ある程度集団の成員としての役割行動をとりながら、すなわち社会生活に参加しながら観察を行う。……社会生活に参加するには、その社会生活を構成する人々と何らかの親和関係の成立が必要である。」(三隅・阿部1974)¹⁷⁾

また、この参与観察における立ち位置は、「①完全なる観察者、②参加者としての観察者、③観察者としての参加者、④完全なる参加者」(佐藤1992)¹⁸⁾の4つがある。「①完全なる観察者(observer role only)」は、「視察」に近いもので、子どもとの接触をもたずに、訪問者のように観察してくる場合である。次に「②参加者としての観察者(消極的な参加者passive participation)」は、インタビューやアンケートなど明確な目的を持ち現場へ行き、活動の中心は調査・観察であり、壁の花になったつもりで参加は最小限にとどめる。次に、「③観察者としての参加者(積極的な観察者active participation)」は、子どもと活動をともにして行う参与観察である。最後の「④完全なる参加者(complete participation)」として行う参与観察は、周りから「観察者」であるとはみなされない。教育実習はこれにあたる。

幼稚園観察実習へ行く前に、目前にある事象から意味あるものをキャッチする力(見る目:何について知りたいか)、即ち「①どのような目的

で(why)、②何を(what)、③どのように」見るのか明らかにする(箕浦2000)¹⁹⁾。幼稚園見学実習は、幼稚園教育における保育活動を子どもとともに「体験・経験」するとともに「目」で観察し、記録(フィールドノート)作成も重要な活動のひとつである。まず、紙と鉛筆による「現場メモ」であり、この現場メモを通じて、後の「実習日誌」記述・作成において、「現場(保育活動等)」をできるだけ正確に再現できるようにする。しかし、「メモを取る」行動は、幼稚園教育の現場に馴染まないこともあり、「調査者」は、調査の現場にとって、訪問者(よそ者)であることを理解しておく必要がある。

幼稚園見学実習では、3, 4, 5歳児の各クラスに分かれて観察を行うことを通して幼稚園児の理解を深める学びでもある。教育実習事前指導「研究保育の指導案作成」における教材研究等の準備活動において、この幼稚園見学実習での観察を通して学ぶ幼稚園児・子ども理解は役立てられる。

(8) 研究保育の実践例～画像を見ながら解説～

実践例の指導案を模写することにより、指導案の書き方、保育の流れの理解ができています。さらに具体的な保育のイメージを持つことをねらいとし、実際に保育を参観した教員が画像を基に次のような解説を行った。

- 1) 日誌や指導案を書く際は《誰が見てもわかるように書く》ということを含言葉に、説明を行った。模写に使用した実際の指導案を基に、「幼児の姿」「ねらい」「指導の経過」「本日のねらい」「内容」「展開」の文面に沿いながらポイントを伝え、解説した。
- 2) 実際に、研究保育の画像を基に解説を行った(図4)。



図4 研究保育の様子

- 3) 「なぜこの研究保育が良かったのか」を、3つのポイントにまとめ解説を行った。

①導入に工夫がみられた。

この実習生は、本日の活動内容をただ言葉で伝えるのではなく、自分で考えた物語を「パネルシアター」で表現し、子どもたちに見せ導入した。そのことにより、子どもたちから「作ってみたい！」との声が自然と上がった（資料5-2模写用指導案2「時刻9:30 予想される幼児の活動」）。言葉だけではなく、《視覚から伝えること》が大切である。視覚から伝えることで子どもたちがワクワクして、やってみたい！という気持ちを引き出すことができる。パネルシアター以外にも、絵本、人形、写真、製作をするものによっては実物（花など）を見せるなど、様々な方法があることを伝えた。導入の仕方一つで、子どもたちの心を動かし、楽しい雰囲気作りができることや、子どもたちの意欲や作品の出来が変わることを伝えた。

例年、導入に色々な工夫をする学生が増えてきたが、インターネットから引用したイラストを使用する学生が多い傾向がある。インターネットから使用の方が簡単で楽だが、手描きでイラストを描く方が、子どもたちへの思いが伝わり、好ましい。実習で学ぶ立場の学生としては、楽をするのではなく、心を込めて工夫するという姿勢を見せて欲しい。

②説明の仕方が分かりやすかった。

説明時、大きい見本を使い説明していた。①でも伝えたが、《視覚から伝える》ことで、分かりやすさが増すことを伝えた。また、説明時の言葉選びが重要であることを話した。子どもたちにトンボの羽（半分に切った楕円形の形）を二つ描いて欲しい場合、この実習生は、「うさぎのお耳を描いてね」と説明した（図5）。さらに他の例として、折り紙の折り方を見せ、「アイスのように折ってね」と伝えると良いことを教えた（図6）。このように、子どもたちが活動で使う折り紙などの拡大された教材を《視覚的提示》と併せて子どもたちが分かりやすく想像しやすい言葉を選び、キーワードとして伝える《聴覚的提示》を並行して行うことが大切である。

③指導案をきちんと把握していた。

研究保育の教材準備を丁寧に行ったことで、指導案がしっかりと頭に入っており、細かな流れが把握できていた。毎年、指導案を書く際、担任の先生から直しが入り苦悩する学生もいるが、何

度も直し、書くことで、予め保育における保育者の働きかけや子どもの活動をイメージし、さらに子どもへの助言等を具体化する等頭の中で保育活動のシミュレーションをすることができ、保育の流れを捉え、整理し、明確にすることができる。自分たちの努力はきちんと意味があることだと伝えた。また、指導案を把握できていると、保育中の急な出来事にも対応できる。例として今回の実習生は、製作したトンボをすぐに壁面に飾るという内容だった。自分のトンボが出来上がったことを喜ぶ子どもたちに、実習生がトンボを壁面に飾ることを伝えると、「えー！飛ばしたい！」との声があがった。実習生は、指導案には書いていなかった子どもたちの急な発言にも動揺せず、子どもたちの言葉を受け止め、壁面に飾る前にトンボを飛ばしながら、壁面の場所に持ってくるよう指示した。これは、きちんと指導案を把握し余裕を持っていたことで、子どもたちの主体的な発想を生かすことができたのだと伝えた。また、指導案をしっかりと把握するためには、シミュレーションを行うことが大切である。一人で鏡の前に立ち説明の練習をしたり、家族などの相手がいる場合は、相手を子どもに見立てて練習をしたりすることで、自分では気付かないことをアドバイスしてもらえることもある。様々な人からの意見を参考にするのも、研究保育が上手くいく一つの方法であることを伝えた。

以上の3つのポイントが重要だが、「子どもたちに楽しんでほしい」という実習生の思いが、何よりも大切である。実習中に考えたこと、工夫したことなどは、就職し現場に出たときも役立つため、一生懸命取り組んで欲しいことを伝えた。

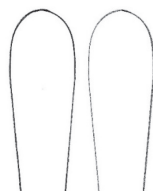


図5 トンボの羽

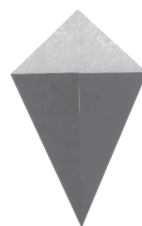


図6 折り紙の折り方

4. 教育実習事前指導における 課題解決活動連携の検討

「幼稚園教育実習事前指導」は、短期大学2年間の教職課程カリキュラムと本学の学生の特徴を考慮して、「幼稚園教育の観察、実習日誌、研究保育の教材研究・指導案作成、研究保育の検討等」における「観察、日誌、教材研究・指導案等」課題解決活動を連携（図7）させながら幼稚園教育実習における学びの理解と併せて幼稚園教育実習への導入を図っている。

幼稚園教育実践経験の無い学生に、教育実習時の研究保育指導案作成等の課題は難しい。そこで、教育実習事前指導プログラムにおける課題解決活動（図7）における学びの連携・手だてを検討してきた。教育実習記録の学びでは、卒業生の実習記録（実習日誌）の事例検討（記述研究）前に、模写（筆写）の学習活動を行う。研究保育の事例研究においても、同様に研究保育指導案（事例）を模写（筆写）の学習活動を行う。これは模

写活動により、

- ①各項目の記述内容等の理解・検討
- ②ことば使い、記述の理解のしやすさ
- ③記述されている教育活動の理解・検討

- ・準備されている環境構成
- ・準備されている教材・教具・遊具・用具
- ・想定されている活動・遊び
- ・活動・遊びを引き起こす保育者の働きかけ
- ・想定されている留意事項

等について、読者・保育者の視点で読み取る（読解）学びを行う。

さらに、「(7・8)幼稚園観察実習」の「①観察」における「②観察メモ（活動・遊び、保育者の働きかけ、環境構成等）」をもとに「③見学用日誌（教育実習日誌）」記述・作成を行う。この観察事実に基づく日誌記述・作成後、「(9・10)研究保育」指導時に「①研究保育指導案（事例）」を〔模写〕させる。さらに、〔模写〕後に、「①研究保育指導案（事例）」「③研究保

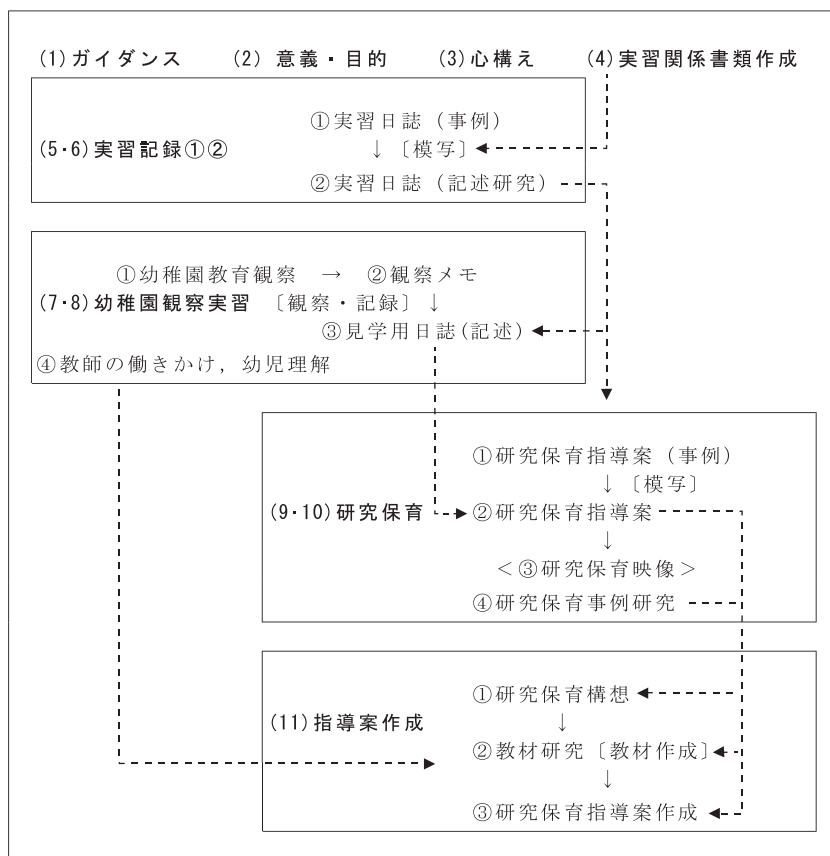


図7 教育実習事前指導プログラムにおける課題解決活動の構成

育映像」をもとに「教師の教材準備、働きかけ、子どもの活動等」について検討する「④研究保育事例研究」を行う。

この教育実習事前指導の観察・記録・検討等の学びの過程を「記号論」を参照しながら検討してみたい。まず、観察において気付き・メモ活動は、感覚器官を通して得られた外界の事物「知覚像」と、その事物の「概念」との「連合」であり「意味作用」（図8）といわれ、経験や知識の総体である。記号は、事物の「代わりの表現」なので、意味作用における「事物の知覚像」を、「記号の知覚像」に代替したときの連合の働きを「記号作用」（図9）という。つまり、事物と記号を合わせた知覚像が概念と連合するはたらきがあるならば、記号作用は意味作用の特別な場合となる。このとき、知覚像＝記号表現、概念＝記号内容となり、ソシュールの「能記・所記」を支持することになる（丸山1983）²⁰⁾（高辻 1985）²¹⁾（斎藤 2004）²²⁾。

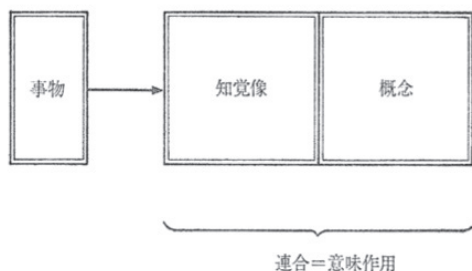


図 8 意味作用（高辻 1985）

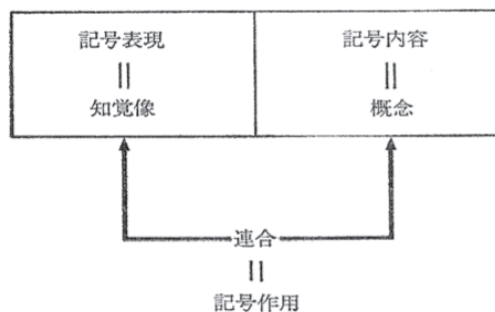


図 9 記号作用（高辻 1985）

次に、記号は、他のものの「代わりの表現」をする。「代わりの表現」が記号であるために

は、社会・特定集団が共通の約束事にしたがって「代わりの表現」を認める必要があり、この共通の約束事を「コード（規約）」という。発信者は「コード」を参照しながら伝達内容を記号化してメッセージを作り出し、受信者は、受け取ったメッセージを「コード」を参照しながら解読して、伝達内容を再構成する（図10）。このとき、発信者の「メッセージ作成」過程と受信者の「メッセージ読解」過程は、方向が正反対なだけで、同一でなければならない。したがって、「コード」には、それを保証する明確な規定が含まれている。そうすると「形式知」は誰にでも同じように読解・理解できるものである。「コード」、「暗黙知」は「コンテキスト」を参照した解読といえる（斎藤 2004）²²⁾。

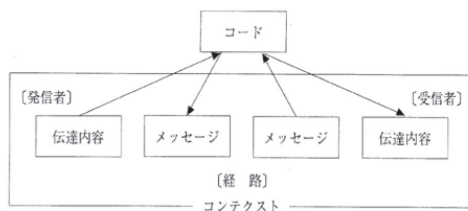


図10 コミュニケーションとコンテキスト

この教育実習事前指導の観察・記録・検討等の学びの過程を、ソシュールの「能記（signifier 記号表現・言語記号、指示するもの）」「所記（signified 記号内容、指示されるもの）」（丸山1983）にて整理すると表2ようになる。

（7・8）幼稚園観察実習」では、「①観察（外界の事物の見え）《所記》」における「②観察メモ《能記》」をもとに「③見学用日誌（教育実習日誌）《能記》」記述・作成を行う。ここでは、「観察（保育者・子どもの活動・環境等の外界の事物の見え）《知覚像》」と学生の「《概念》」の連合・意味作用（図8）により「メモ記述《能記》」がなされ、さらに「観察メモ<記号表現>」に基づき「③見学用日誌（教育実習日誌）《能記》」が作成され、記号作用（図9）が働く。ここでは、幼稚園教育実践を対象とした「観察→観察メモ→日誌記述（伝達内容→メッセージ作成）」の活動において発信者としての「（幼稚園教育）コード・コンテキスト」（図10）参照が不可欠である。

次に、「（9・10）研究保育検討」指導時に

「①研究保育指導案(事例)《能記》」を〔模写〕させる。さらに,〔模写〕後に,「②研究保育指導案(事例)」「③研究保育映像」をもとに「④研究保育事例研究」を行う。この「①研究保育指導案(事例)《能記》」の〔模写〕では,キーワード・注目語の選択がなされる。さらに,「②研究保育指導案(事例)〈能記:記述・記号表現〉」読解・検討では,「③保育映像〈所記:知覚像:教師の教材準備,働きかけ,子どもの活動等〉」→「④研究保育事例研究:〈所記:知覚像:教師の教材準備,働きかけ,子どもの活動等〉」のように「②文字《能記》」と「③④具体的な保育者・子どもの活動と教材等《所記》」を対

応・連合させ理解を図る活動である。さらに,「②研究保育指導案(事例)」→「③研究保育映像」→「④研究保育事例研究」の活動では,受筆者としての「(幼稚園教育)コード・コンテキスト」(図10)の参照がなされる。

「(11)研究保育指導案作成」は,教育実習における研究保育を構想(仮説生成)である。つまり,「①研究保育指導案(事例)《能記》」における「《所記(保育者,子ども,環境・教材,活動)》」「(幼稚園教育)コード・コンテキスト(図10)」の理解等に基づき「③研究保育指導案」立案がなされる。

表2 観察実習・研究保育検討・指導案作成における学生の学び

	(5・6) 実習記録	(7・8) 幼稚園観察実習	(9・10) 研究保育検討	(11) 指導案作成
能記	①実習記録	③見学用日誌	①研究保育指導案	③研究保育指導案
	↓	↑	↓	
所記		①幼稚園観察実習	③研究保育映像	-----

5. まとめ

教育における課題は,それを担う教師により解決を図ることが求められている。教師には,課題の発見とともに実践的能力を主軸とした資質能力とその力量形成が求められており,日本の教師の学びである校内研究kounai-kenkyu・レッスン・スタディLesson-Studyは,海外の教師の学びのモデルとして注目されている。教師への学びである教員養成において基幹となる教育実習は,学校教育の体験的な認識と併せて今後大学で学ぶ専門的・学問的知識や技術を教育実践の場において具現化する理論と実践の統合の場として位置づけられている。

本学では教育実習・教育実習事前事後指導は,2年次前期・夏季に開設している。本稿は,幼稚園教育実習へ臨む「教育実習事前事後指導」の充実のため,授業担当者による同プログラムの構成と教材等の検討である。

幼稚園教育実習における「研究保育指導案作

成」への学びとして,「保育観察実習」「研究保育事例研究」等から構成される「教育実習事前事後指導」を構成し,学生の作成した同指導案について,一定の評価は,得られている。今後,「教育実習事前事後指導」充実のため,本学の教育課程及び学生の学びの特徴を踏まえ,さらに検討を進めていきたい。

謝辞

本稿は,これまでの本学保育学科在籍教員の実践・評価に基づく蓄積の成果に基づき,学生の特徴に合わせて実施した教育実習事前指導について検討した。教育実習は,本学保育学科教員全員と教育実習をご指導いただいている協力幼稚園,また,本学事務局職員の協力体制により実施している。これまでの充実した教育実習の実施は,関係各位の協力によるものと記して深謝いたします。

引用文献

- 1) トフラー, A. “第三の波”. 第三の波. 東京. 日本放送出版協会, 1980, 186-518.
- 2) 文部省. 教育実習の改善充実について. 1978
- 3) スーパー, D. E. 日本職業指導学会誌. “職業生活のコースと週期”. 職業生活の心理学—職業経歴と職業的発達—. 東京. 誠信書房, 1960, 92-204.
- 4) 尾高邦雄. “職業の三要素”. 職業社会学. 東京. 岩波書店, 1941, 17-28.
- 5) レイブ, J. and ウェンガー, E. 佐伯胖訳. “実践共同体における正統的周辺参加”. 状況に埋め込まれた学習—正統的周辺参加—. 東京. 産業図書, 1991, 71-106.
- 6) Hendrey, J. A. 西之園晴夫訳. Towards Self-Instruction in Teacher Education. 京都教育大学教育実践研究指導センター教師教育についての討論資料, 1979, 45-50.
- 7) 小金井正巳, 井上光洋, 児島邦宏. マイクロティーチングによる教育実習プログラムの開発と評価. 日本教育工学雑誌. 1980, 4, 113-126
- 8) 藤岡完治. 教育実習生の意思決定過程の研究—教育実習生の主体性に対応できるシステムの構成—. 国立大学教育実践研究センター年報. 1982, 3. 139-166.
- 9) 高橋哲郎・野嶋栄一郎. 教育実習事前指導プログラムの開発とマイクロティーチングの改善に関する研究. 日本教育工学雑誌. 1987, 11, 57-70.
- 10) 山川信晃. 自己学習方式による教育実践基礎訓練プログラムの開発と試行. 日本教育工学雑誌. 1987, 11, 26-44.
- 11) 岸本幸次郎・久高善行編著. “教師の力量”. 教師の力量形成. 東京. ぎょうせい, 1986, 9-48.
- 12) 生田孝至. 学生の教授スキルに関する学年間比較. 日本教育工学雑誌. 1987, 11, 71-88.
- 13) ポラニー, M. “暗黙の知”. 暗黙知の次元—言語から非言語へ. 東京. 紀伊國屋書店, 1980, 11-47.
- 14) 西之園晴夫. 教育実践の研究方法としての教育工学. 日本教育工学雑誌. 1999, 23, 67-77.
- 15) Nonaka I. and Takenaka H. 野中郁次郎, 竹中弘高. 梅本勝博訳. “組織的知識創造の理論”. 知識創造企業. 東京. 東洋経済新報社, 1996, 83-141.
- 16) サミュエル・スマイルズ. 竹内均訳. “成長への意欲と自助の精神”. 自助論. 三笠書房, 2015, 11.
- 17) 三隅二不二・阿部年晴. “参加観察法”. 心理学研究法10 観察. 続有恒・苧阪良二編, 東京. 東京大学出版会, 1975, 139-174.
- 18) 佐藤郁哉. “フィールドワークの実際”. フィールドワーク—書を持って街へ出よう—. 東京. 新曜社, 1992, 129-135.
- 19) 箕浦康子. “フィールドワークの基礎的スキル”. フィールドワークの技法と実際—マイクロエスノグラフィ—入門. 箕浦康子編. 京都. ミネルヴァ書房, 2000, 21-30.
- 20) 丸山圭三郎. “『講義』と原資料, 講義Ⅰ, 講義Ⅱ, 講義Ⅲ”. ソシユールを読む. 東京. 岩波書店, 1983, 31-236.
- 21) 高辻正基. “記号とは何か”. 記号とは何か—高度情報社会を生きるために—. ブルーバックス B-591, 東京. 講談社, 1985, 47-95.
- 22) 斎藤孝. “知識の知識”. 「記録・情報・知識」の世界—オントロジ・アルゴリズムの研究. 東京. 中央大学出版部, 2004, 105-112.

参考文献

- 高橋弥生他編. 保育実習. 一藝社, 2012, 140-150.
- 民秋言他編. 幼稚園実習. 北大路書房, 2007, 37-65.
- 汐見稔幸他編. よくわかる教育原理. ミネルヴァ書房, 2015, 41.
- 寶川雅子. 保育・教育実習完全サポートブック. 中央法規出版, 2016, 38-45.
- 諏訪きぬ. 幼稚園実習ガイドブック. 新読書社, 2009, 75-83.
- 田中東亜子他編. 幼稚園教育実習. 日本文化科学社, 2001, 81-105.
- 宮崎猛他編. 教育実習完璧ガイド. 小学館, 2015, 30-52.

玉井美智子監修. 免許取得に対応した幼稚園教育実習. 学事出版, 2007, 38-58.

北海道教育大学函館校. 教育実習の手引. 北海道教育大学函館校教育実習委員会, 2002

資料1 保育学科カリキュラムマップ

定義	学修到達度に関わらず、短期大学士に相応しい教養を身につける科目		当該領域および系列を学修するための基礎・総論的位置付けの科目		当該領域および系列の各論、1の科目の応用的内容を含む科目		当該領域および系列の発展的内容の科目		既習科目を複合させて、学修の集大成として取り組むべき科目		ディプロマ・ポリシー	教育目標	
	水準	0	1		2		3		4				
領域名	科目名	DP	科目名	DP	科目名	DP	科目名	DP	科目名	DP			
芸術			音楽Ⅰ	DP1	音楽Ⅱ	DP1	音楽応用	DP1					
			音楽基礎	DP1									
			図画工作Ⅰ	DP1	図画工作Ⅱ	DP1.8							
			造形表現基礎	DP1									
保育学・保育内容			健康	DP1.4	保育内容(健康)	DP1.4						[知識・技能] DP1. 保育と子育て支援に必要な専門的知識と技術を有し、子どもの成長を促す保育を展開できる	
			人間関係	DP1.4.8	保育内容(人間関係)	DP1.4.8							
			環境	DP1.4	保育内容(環境)	DP1.4							
			言葉	DP1.4.8	保育内容(言葉)	DP1.4.8							
			表現	DP1.4.8	保育内容(表現)	DP1.4.8	総合表現	DP1.8					
			保育原理	DP1.2.3.4.5.7									
			保育内容総論	DP1.2.3.5.6.8					幼児理解	DP1.4	保育実践演習		DP1.2.3.4.5.6.7.8.9
社会福祉、児童養護、保護者支援			社会福祉	DP1.2.3.4.7	児童家庭福祉	DP1.2.3.4.7	相談援助	DP1.3.5.7.8	保育相談支援	DP1.2.3.4.5.7.8		DP2. 地域の特性を適切に把握し、保育に反映させることができる	
					社会的養護	DP2.3.4	社会的養護	DP2.3.4					
					家庭支援論	DP3.4							
子どもの健康・保健			子どもの保健Ⅰ	DP1.4.5	子どもの保健Ⅱ	DP1.4.5						DP3. 保育者の社会的使命を理解することができる	
					乳児保育	DP1.4.5							
					子どもの食と栄養	DP1.6							
					障害児保育	DP1.2.4.6							
心理学			教育心理学	DP1.5.7.9	発達心理学	DP1.5.7.9	臨床心理学	DP1.5.7				[思考力・判断力・表現力] DP4. 子育て環境を深く分析して、課題や問題を見つけ出し、その解決に向けて計画的に考え、答えを導き出す能力を身につけている	
			保育実習指導Ⅰ	DP1.2.3.4.5.7.9	保育実習Ⅰ	DP1.2.3.4.5.7.8	保育実習Ⅱ	DP1.2.3.4.5.7.8	保育実習Ⅲ	DP1.2.3.4.5.7.8			
教育学・教職			教育原理	DP1.7								DP5. 身につけた知識と技能を生かし、物事を的確に認識して評価できる能力を身につけている DP6. 生涯にわたって学び続け、身につけた知識や技能を積極的に活用し、社会に貢献しようとする能力を身につけている	
			教職概論	DP1.7									
					教育課程総論	DP4							
					教育相談	DP3.4							
					教育経営論	DP1.4							
					教育の方法と技術	DP4.5.6							
					幼稚園教育実習事前指導	DP1.2.3.4.5.7.8	幼稚園教育実習	DP1.2.3.4.5.7.8	幼稚園教育実習後指導	DP1.2.3.4.5.7.8	教職実践演習(幼稚園)		DP4.5.6.7.8.9
レクリエーション			レクリエーション指導法	DP5.8	レクリエーション指導実習	DP5.8						[コミュニケーション力・社会人力] DP7. 専門職業人としての高い倫理観を保持し、社会に貢献しようとする能力を身につけている DP8. コミュニケーション力を身につけ、他者と協働して課題を解決しようとする能力を身につけている DP9. 他者への思いやりと柔軟な対応力をもつことができる	
			教養ゼミナール(SL)Ⅰ	DP4.5.6.7.8.9	教養ゼミナール(SL)Ⅱ	DP4.5.6.7.8.9							
一般教養			社会人基礎論Ⅰ	DP4.7	社会人基礎論Ⅱ	DP4.6.7.8							
			情報機器の操作Ⅰ	DP1	情報機器の操作Ⅱ	DP1							
					ボランティア実習Ⅰ	DP4.5.7.8.9	ボランティア実習Ⅱ	DP4.5.6.7.8.9					
					食育の基礎知識	DP2.4							
					やさしい生態学	DP4							
			日本国憲法	DP1.3.7									
			外国語(英語・仏語・中国語)	DP8									
			保育実習(障児・福祉・ボランティア)	DP1.8.9									
			保健体育	DP1									
			国際交流	DP8									
			文化交流	DP8									
			言葉と表現	DP5.8.9									
			国語	DP5.6									
			コンピュータ基礎教養Ⅰ	DP8	コンピュータ基礎教養Ⅱ	DP8							
			コンピュータ基礎教養Ⅲ	DP8	コンピュータ基礎教養Ⅳ	DP8							
			コンピュータ基礎教養Ⅴ	DP8	コンピュータ基礎教養Ⅵ	DP8							

資料2 個人票の書き方

教育実習 個人票の書き方

教育実習の個人票は、先方の幼稚園が初めてみなさんのことを知る書類になります。書類が与える第一印象はとても重要ですので、誤字脱字のないように、そして丁寧に書いて作成する必要があります。以下の例を参考に、チェックしながら作成しましょう。

教育実習 実習生個人票			
函館短期大学 保育学科 〒042-0955 北海道函館市高丘町 52 番 1 号 TEL (0138) 57-1800 FAX (0138) 59-5549			
保育学科 2 年 / 学籍番号: 146000			
ふりがな ほこたん はなこ		昭和	
氏名: 函短 花子		生年月日: (平成) 7 年 7 月 7 日生	
実習中の住所: 〒041-0955 函館市高丘町 52 番 1 号 TEL: 0138-57-1800			
ふりがな ほこたん いちろう		昭和	
保護者氏名: 函短 次朗		続柄: 父	
保護者住所: 〒 同上 TEL:			
学籍	昭和 (平成)	26 年 3 月	北海道稜北 高等学校 卒業
	昭和 (平成)	28 年 3 月	函館短期大学保育学科 卒業見込み
職歴	昭和 平成 昭和 平成	年 月	なし
資格: 実用英語技能検定 2 級、日本漢字能力検定 2 級			
免許: 普通自動車第一種運転免許			
趣味	読書、映画鑑賞	食物アレルギー:	健康状態:
特技	菓子作り、サッカー	あり (生卵、牛乳)	良好 (注: 新薬特製のつゆ、 薬類はアレルギー)

- 全体の注意点: 文字サイズ(ふりがな、郵便番号等を除く)は、ほぼ一定にすること。
- 氏名: 丁寧に記入。ふりがなを忘れない!
- 生年月日: 昭和 or 平成は、丁寧に○をつける。
- 実習中の住所: 郵便番号を忘れない!
都道府県名は省略する。〇〇市 or 〇〇郡から始める。

- 保護者氏名: 続柄は、戸籍上の正確なものを記入する。
- 保護者住所: 実習中の住所と同じ場合は、同上とする。異なる場合は、都道府県名から記入する。
- 1 行目 高校の学歴
*北海道の公立高校の場合→ 北海道〇〇高等学校
*道外の公立高校の場合→ 〇〇県立〇〇高等学校
*私立高校の場合→ 〇〇高等学校(私立はいらない)
2 行目【現役生】記入しない。
【他大学卒業生等】卒業した学校名を記入する。

- 職歴: ある場合は、〇〇株式会社 入社(至 平成〇年〇月)と記入。*アルバイトは記入しない!
特になし場合は、なしと記入する。

- 資格・免許: 基本的に正式名称で記入する。
Ex) 普通自動車第一種運転免許 実用英語技能検定〇級 日本漢字能力検定〇級 実用数学技能検定〇級 日商珠算能力検定 日珠連珠算能力検定 ワープロ実務検定 日本語ワープロ検定

- 趣味・特技: 必ず記入する。
*不要な「お」は避ける。×お散歩、お琴 → 散歩、琴
- 食物アレルギー: ない場合は、なしと記入。医師の診断を受けたことのある場合は、ありと記入し、原因食材を細かく記入する。
- 健康状態: 通常、良好と記入する。健康状態に不安がある学生は教員に相談すること。
*怪我(過去の怪我を含む)のために走れない、正座ができないといった場合は、その旨を記入する。

次回までに、下書き用紙にボールペンで丁寧に記入してくること。

資料3 実習日誌

本日の主なねらい, または活動 感想	自己課題
学んだ点・反省	
翌日の自己課題 指導者所見	
担当者印 園長印	

月日	曜日	天候	クラス名	人数
			組名 担任氏名	男児名 女児名 計名 実習生氏名
時刻 環境構成 幼児・保育者の動き 実習生の活動・気づき				

資料 4-1 指導案の書き方 1

研究保育指導案

日 時 平成 年 月 日 (曜日)
時 分 ~ 時 分

対象児 幼稚園
歳児 組
男児 名 女児 名 計 名

指導者 実習生 函館短期大学保育学科 2年
函短 花子 印

1 幼児の姿

子どもの発達からみえる姿と現在の子どもの実態との両面から捉える。

2 ねらい

期	担当教師に依頼し、指導計画を確認する
月	
週	

3 指導の経過

研究保育までに担当した指導の内容を、時系列で記す。足りない場合は書き足す。

→

枠は必要に応じて追加しても可。

4 本日のねらい

育てたいものが何かを明確にし、心情・意欲・態度の側面から設定する。経験してほしいこと、身につけてほしいことなど、子どもの実態に即した教師の願いを盛り込む。

◎

◎

5 内 容

ねらいが達成されるために、必要な経験は何かを明確にした内容にする。

資料 4-2 指導案の書き方 2

時刻	環境構成	幼児の子想される活動	教師の援助
			<p>保育者が意図的・計画的に構成した環境に、幼児がどのように関わるか、活動を予想して書く。</p> <p>ねらいにむけて活動が展開されるよう、どのように援助するか書く。これまでの日誌に書いた気づきが活かされる。活動よりも援助が重要である。</p>
	<p>ねらいの達成に向けて、必要な経験ができるよう、物・場所・人・時間などの環境構成を書く。</p>	<p>・保育のねらいを達成するための具体的な幼児の姿を考える</p> <p>・幼児の年齢や、その時期の成長により考えられる姿は変わる</p>	
評価の観点			<p>ねらいが達成されたかどうか保育を評価する観点を指導案作成時に書く。</p> <p>幼児の反応や活動の様子、言葉や表情などから評価する。</p>

資料5-1 模写用指導案1

実践例 1

研究保育指導案

日時 平成 年 9月 8日 水曜日
8時 30分~ 14 時00 分
対象児 4歳児 たんぼぼ 組
男児 8名 女児 8名 計 6 名
指導者 実習生 函館短期大学保育学科2年
函 短 花 子 印

1 幼児の姿

個人差はあるが、基本的習慣はほぼ身に付き、身の回りのことは出来るようになってきている。また、興味のあることにじっくりと取り組む姿がみられる。

室内では、友だちと一緒に会話を楽しみながら、ままごとや病院ごっこ他、ブロック遊びをしている。園庭ではルールのある鬼ごっこ、ブランコや自転車などで遊んでいる。

楽しかった夏休みを思い出し、経験画を描き、製作ではぶどうを作り楽しんでいる。

なかよしファームでとうもろこしの収穫や秋大根の種植えをして、食物の成長に興味を持ち季節を感じている。

2 ねらい

期	戸外で活発に運動遊びをする。
月	友だちと一緒に色々な活動に楽しんで取り組む。
週	身近な秋の自然に触れ、興味を持って楽しんで遊ぶ。

3 指導の経過


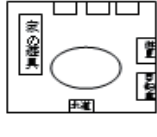
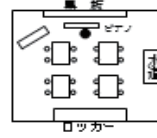

9/7 ・絵本「たんぼのあかねちゃん」を読む	→	9/8 (本日) ・トンボの製作をする ・完成したたんぼを壁面に飾る	→	9/9 ・歌「トンボのめがね」に合わせてリズム遊びをする
---------------------------	---	------------------------------------------	---	---------------------------------

4 本日のねらい

- ◎トンボの羽をイメージし、模様を表現することを楽しむ。
- ◎トンボに興味を持ち、秋を感じる。

資料5-2 模写用指導案2

6 展 開

時 刻	環境構成	予想される幼児の活動	教師の援助
8:30	<p>○幼児 ●保育者</p> 	<p>窓園</p> <ul style="list-style-type: none"> ・窓園し、所持品の始末をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・明るい雰囲気と挨拶をし、健康状態等を確認する。
9:10		<p>好きな遊び(室内)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブロックやままごと等で遊ぶ。 ・片付けをする。 ・カラー帽子を絞り男女別に整列する。 ・玄関で外靴に履き替える。 <p>好きな遊び(園庭)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鬼ごっこや自転車、砂場等で遊ぶ。 ・片付けをする。 *雨天時は室内で遊ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びを楽しめるように配慮する。 ・一人ひとりが意欲的に片付けられるように言葉掛けをする。 ・安全に配慮しながら、一人ひとりが何をしているか把握する。 ・協力して片付けることが出来るように言葉掛けをする。
9:30	 <p>(完成図)</p>  <p>(材料)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・羽～コーヒーフィルター ・目～画用紙(白) ・胴体～画用紙(茶・こげ茶・赤・肌色) <p>(使う道具)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はさみ ・セロハンテープ ・のり ・扇形刀 ・クレヨン 	<p>組の空</p> <ul style="list-style-type: none"> ・排泄、手洗い、うがいを済ませる。 ・グループごとに座る。 ・「組の歌」を歌い、挨拶をする。 <p>トンボの製作</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トンボについての話を聞く。 ・パネルシアターを見る。 ・作り方の説明を聞く。 ・トンボの製作をする。 <ol style="list-style-type: none"> 鉛筆でコーヒーフィルターに羽の形を描き、その線上を切り、開く。 左右の羽に水性ペンで模様を描く。 ②に霧吹きで水を吹きかける。 にじむ様子を観察し終えたら、前のテーブルへ羽を置き、乾かす。 新聞紙を巻き、セロハンテープで止める。 ⑤を画用紙で巻き、セロハンテープで止める。 丸く切られた白し画用紙にクレヨンで目を描く。 トンボの胴体にのりを付けて、目と胴体、胴体と羽を貼る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・排泄、手洗い、うがいをするように伝える。 ・テーブルをグループごとに出す。 ・元気づく歌えるよう配慮しながら伴奏する。 ・トンボに興味を持てるように話す。 ・最後まで楽しめるようにパネルシアターを行う。 ・見本を見せながら、分かりやすく説明する。 ・机間巡視をしながら、はさみを安全に使えるように援助をする。 ・自分でイメージしたものを描けるように言葉掛けをする。 ・模様がにじむ様子をじっくり観察できるように言葉掛けをする。 ・子どもたちの羽をグループごとに集め、並べて乾かす。 ・セロハンテープで止めやすいように援助する。 ・トンボはどんな表情なのか、想像できるように言葉掛けをする。 ・のりを付ける位置が分かりやすいように見本を見せながら伝える。

資料5-3 横写用指導案3

時刻	環境構成	予想される幼児の活動	教師の援助
11:20		<ul style="list-style-type: none"> ・製作したトンボを飾る。 ・片づけをする。 ・製作したトンボについて話し合う。 <p>給食準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・排便、手洗い、うがいを済ませる。 ・椅子やおはんを用意する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちの作ったトンボに興味をもてるよう紹介しながら、製作したトンボを壁面に飾る。 ・自主的に片付けられるように言葉掛けをする。 ・自分で製作したトンボについて、意欲的に話すことが出来るように言葉掛けをする。
11:40		<p>給食</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「おべんとうのうた」を歌い、挨拶をする。 ・給食を食べる。 ・食べ終わった順に片づけをして、歯磨きをする。 ・給本を読む。 ・挨拶をしてテーブルと椅子を片付けする。 <p>好きな遊び(室内)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ままごとやブロック等で遊ぶ ・片づけをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・元気に歌えるよう配慮しながら伴奏する。 ・楽しい雰囲気の中で、食事が出来るように配慮する。 ・嫌いな食べ物、頑張って少しでも食べるように言葉掛けをする。 ・静かに給本を読むように言葉掛けをする。 ・協力して片づけが出来るように言葉掛けをする。
13:20		<p>降園準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・排便、手洗いを済ます。 ・降園の身支度をして、グループで座る。 ・手遊び「はじまるよ」をする。 ・給本「あさいろのおさんぽ」の読み聞かせを聞く。 ・今日の活動の振り返りと明日の活動についての話を聞く。 ・「帰りの歌」を歌い、挨拶をする。 <p>降園</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コースに分かれ、降園する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全に気をつけながら、一緒に遊ぶ ・片づけをし、保育室へ戻るよう言葉掛けをする。 ・降園の身支度をするように言葉掛けをする。 ・楽しめるように雰囲気作りに配慮する。 ・子どもたちの表情を見ながら、声に抑揚をつけて読む。 ・子どもたちの声を拾いながら、分かりやすく話す。 ・元気に歌えるように配慮しながら、伴奏する。 ・コミュニケーションをしっかりと取りながら、明日も元気に登園するよう一人ひとりと挨拶をする。
14:00			
評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> ・トンボの羽の模様を自由に描き、表現することを楽しんでいたか。 ・友だちの製作したトンボにも興味を持ち、秋を感じることが出来ていたか。 		